

かれんな娘が破窓に狂い大蛇に変身していく物語を舞う古澤侑峯さん（鳳仙寺庭園で）

鳳仙

境野地区権家会通信
 発行 編集
 清水 義男

鐘で始まり、鐘で終わり

谷あいの新緑の庭園、池の上にしつらえられたどこにもない舞台。桐生市梅田町一丁目の鳳仙寺で27日、「地歌舞の世界」が繰り広げられた。同寺で舞を学ぶ「鳳の会」を指導している古澤侑峯さんの公演で、本堂にぎっしり座った人たちは舞台と舞と、吹き渡る風や寺の鐘まで一体化した非日常の空間に酔いしれていた。

一陣の風も吹き荒れて

非日常の空間で

鳳仙寺で公演「地歌舞の世界」

地歌舞は「上方舞」とも呼ばれ、歌舞伎とも戸の踊りと区別される。

観客と同じ座敷空間で舞

うため、動きを抑えて、

見る側は息遣いやすそさ

ばきなどの気配をも感じ

つつ、自分の胸の内を映

して見ることができると

いう。古澤さんは家元の

長女として2歳から舞

い、古典はもちろん、さ

ままな異分野とのコラボ

レーションにも取り組

む。

山寺の鐘の音を合図に

始まった公演は、富元清

英さんの地歌と三絃に

乗ってまず、ご祝儀曲と

される「鶴の声」が舞わ

れた。続いて来ぬ人を待

つ女心をうたう「袖の

露」。古澤さんのお話が

(以下、2面へ続く)

(1面から続く)

はさまれ、吉岡龍見さんによる尺八独奏「鶴の巢籠」が響き渡った。

夜闇が迫るなか、後半はドラマチックな大作「古道成寺」。清姫が恋心を打ち明けたにもかかわらず、逃げた僧・安珍を追って、大蛇(竜)に変身して川を渡り、鐘の中に隠れていた僧を焼き尽くすというストーリーで、怒り心頭し変身するまさにそのとき一陣の風が吹き荒れて、思いもよらぬ舞台効果となった。鐘の音で終演となり、観客たちは「すばらしい場で、すべて満足ね」と語り合ったり、闇に沈む庭園をしばし眺めて余韻に浸っていた。



以上の「地歌舞の世界」の記事は、平成19年 5月29日付の桐生タイムス紙から転載したものです。ただし、記事には手を加えていませんが、本会報紙面の関係から、編集をし直していることを付け加えます。

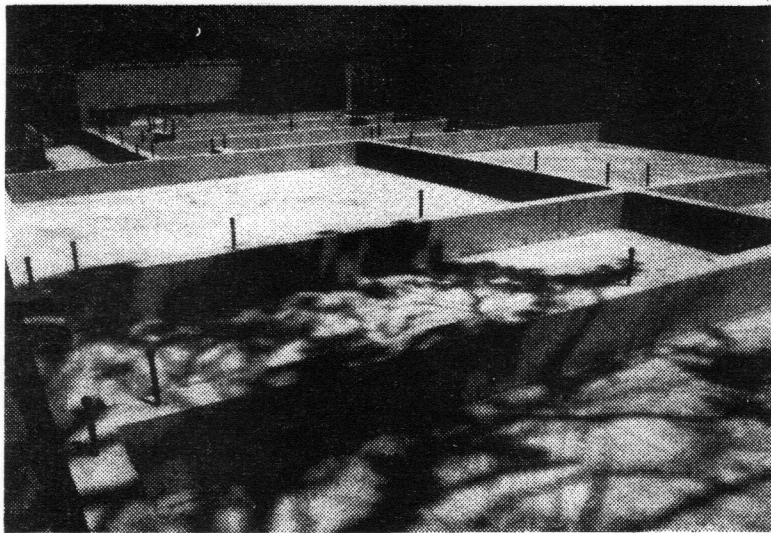
新緑に映える菩提寺!

参道の杉木立も霊地演出

山肌を真っ赤に染めていたツツジの季節が、いつの間にか去って、菩提寺の周辺は、いま清々しい新緑に

彩られています。菩提寺周辺の緑は、市街地の木々の緑には見られない、実に鮮やかで美しい新緑。この緑が時折参拝に訪れる人々の目を奪っています。

長い参道の杉木立も、知らない間にすっかり新芽に衣替えをし、森閑として「鳳凰が飛び仙人が遊ぶ霊境の地」を演出してくれています。



落慶期日が延期されたとはいえ、その後の祀堂工事の進捗具合はどうか・・・と、気持ち良く晴れ上がった5月21日の午前中に、菩提寺を訪問してみました。

早速、本堂に向かって左側の工事現場へ行き、カメラの

祀堂工事だより

シャッターを押ししました。

工事は前回(鳳仙第28号)

お知らせした時よりも一歩進んでいて、基礎工事がしっかりと完成していました。【写真参照】白く乾いた基礎のコンクリート上に、木陰が伸びる光景も美しいものです。



に、皆さん方には、何かと多忙な毎日ではありませうが、「忙中閑有」です。ゆとりを見いだして、時には菩提寺を訪れてみては如何でしょうか。この美しい新緑に包まれた、歴史ある菩提寺の伽藍や仏像たちが、きっと訪れた皆さんの心をソツと癒してくれるはずですよ。